地方創生☆政策アイデアコンテスト2024

移住者を増やして地方創生

～移住者と地域が共に育む豊かな未来～

熊本県立大学　総合管理学部
井田研究室
小西美空　藤原鈴菜
前田佳澄　安井萌英香

構成

1 現状と課題

1. 概要・現状
2. 課題

2 分析

- データ分析

3 提言

1. 施策提案
2. 実行可能性

4 施策の展開

- モデルプラン

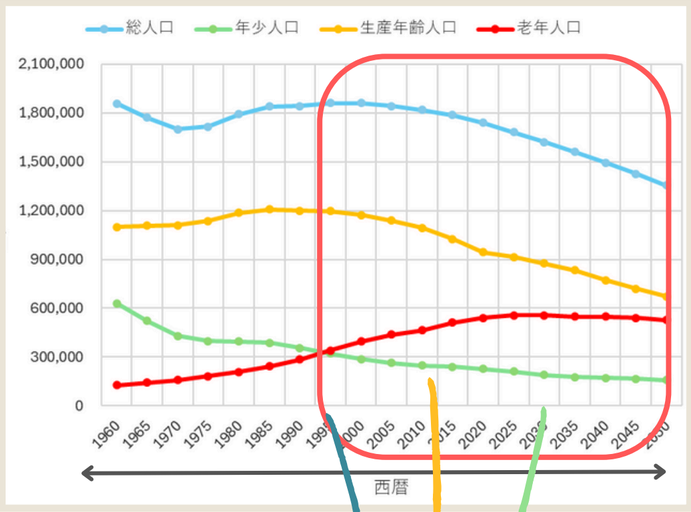
5 最後に

- まとめ・展望

1 ① 概要・現状

人口　1,696,144人（10月時点）
面積　7,409,48km²
特徴　世界有数のカルデラを持つ阿蘇山、日本三大急流の球磨川、天草の島々など
豊富な自然に恵まれており、生活用水への地下水利用は県全体で8割を超える

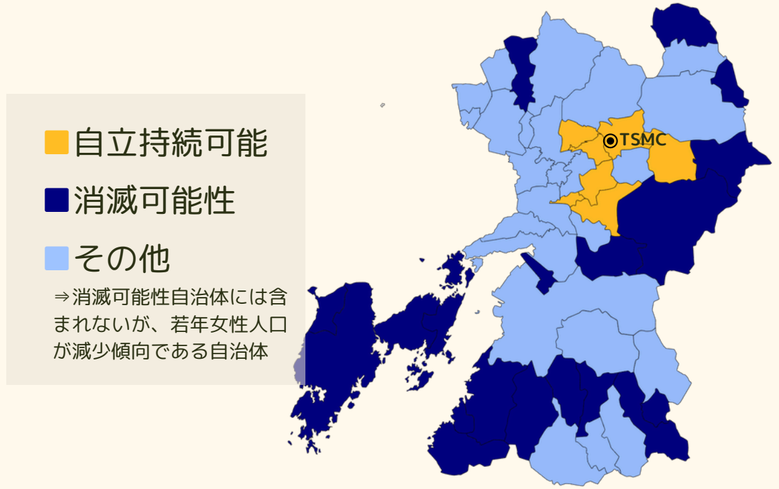
人口推移グラフ（熊本県）



【出典】RESAS 人口構成-人口推移
（True Data by 株式会社True Data）

熊本県内の人口は2000年以降、老年人口を除き逓減。

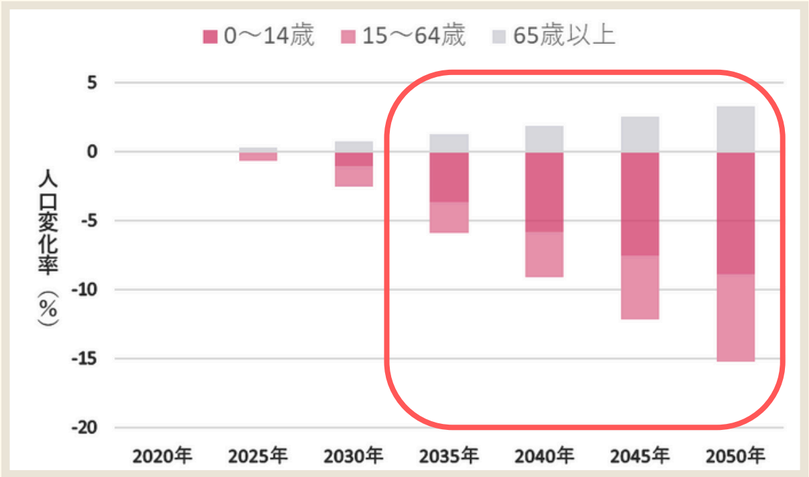
消滅可能性自治体マップ



【出典】朝日新聞デジタル「消滅可能性自治体マップ」2024

熊本県内で18もの自治体が消滅可能性都市に指定。

熊本県の人口推移予測



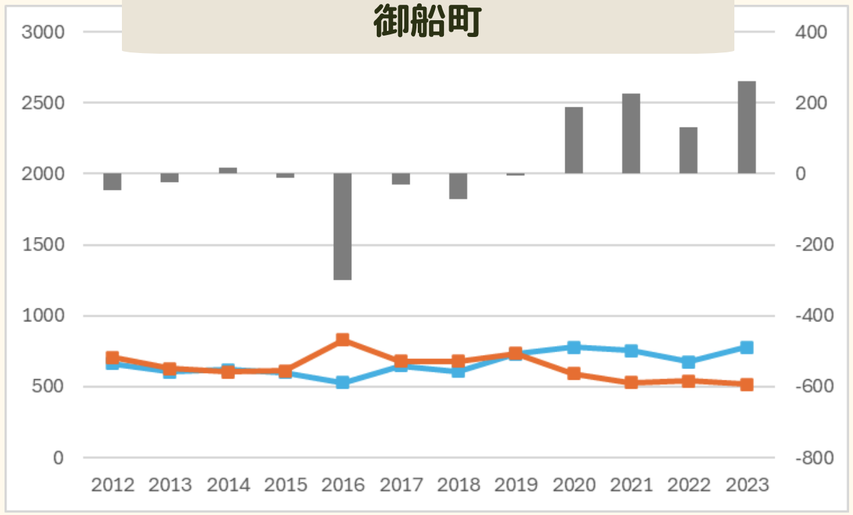
【出典】国立社会保障・人口問題研究所より作成

30年後には年少人口と生産年齢人口約15%が転出

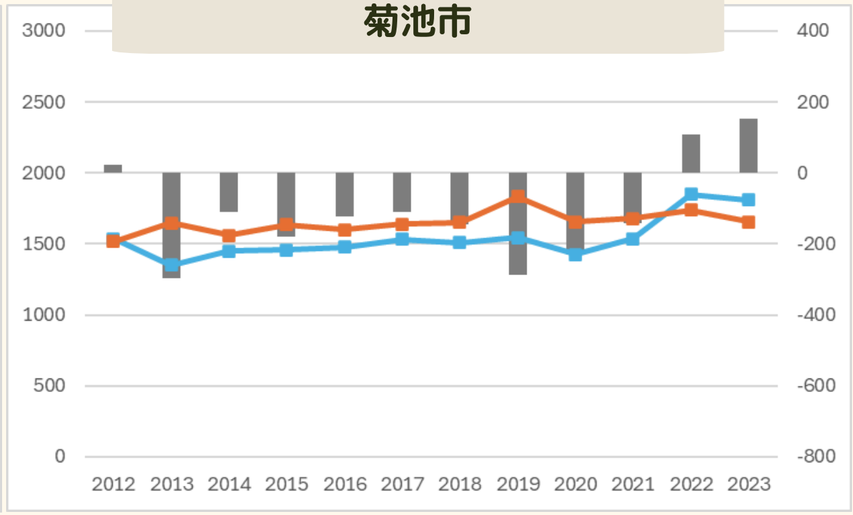
1 ① 概要・現状

ー社会増減ー

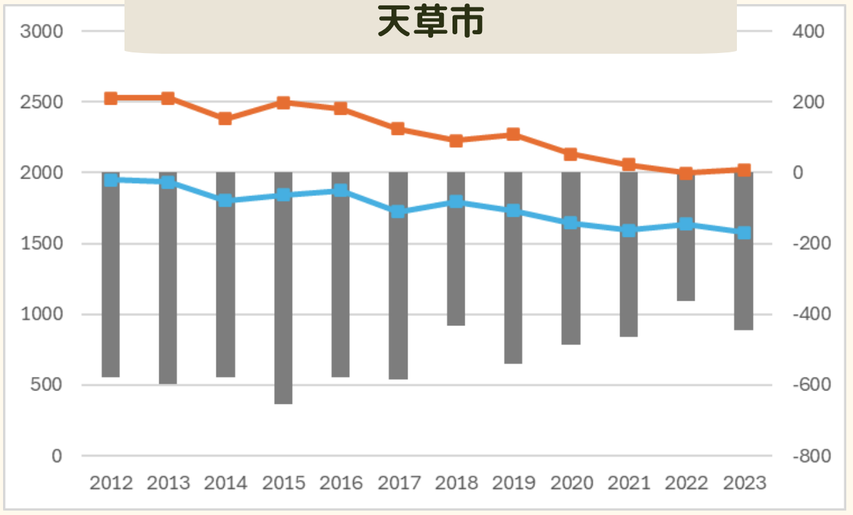
御船町



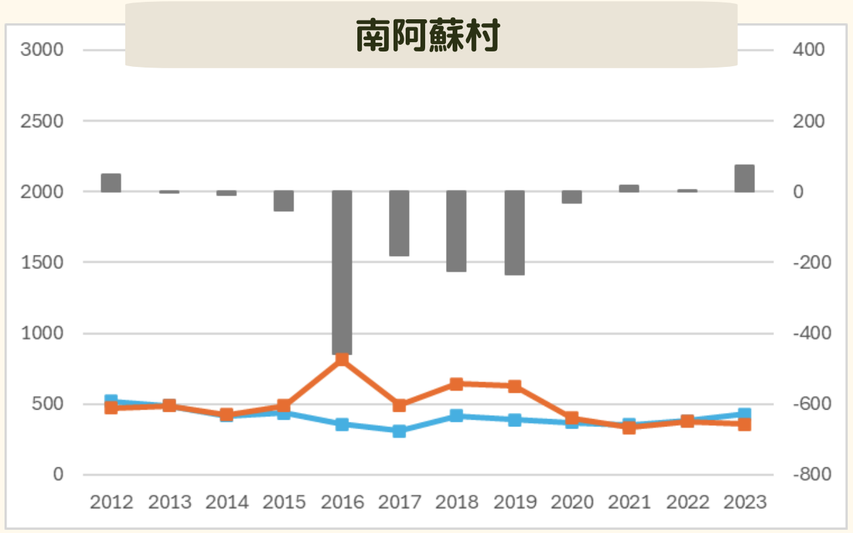
菊池市



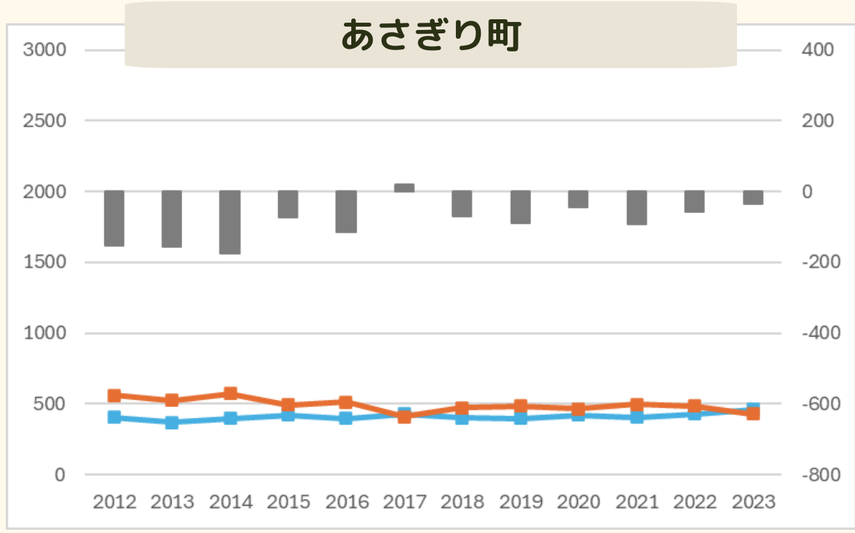
天草市

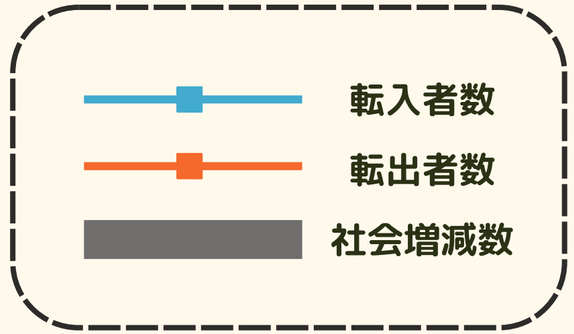


南阿蘇村



あさぎり町

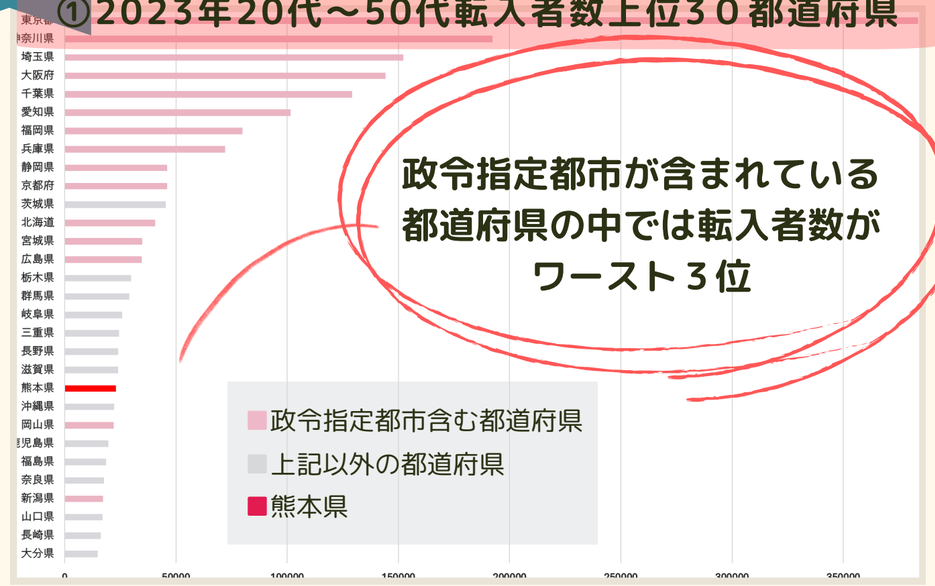




【出典】RESAS 人口の社会増減-From-To（定住人口）
（True Data by 株式会社True Data）より作成

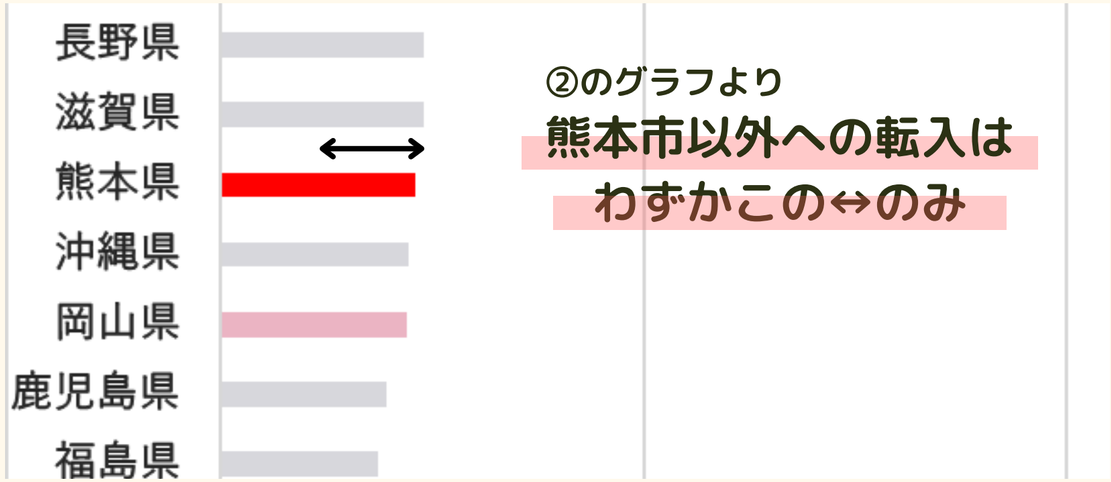
1 ② 課題

①2023年20代～50代転入者数上位３０都道府県



【出典】RESAS 人口の社会増減-From-To（定住人口）（True Data by 株式会社True Data）より作成

①を拡大し②と
照らし合わせると

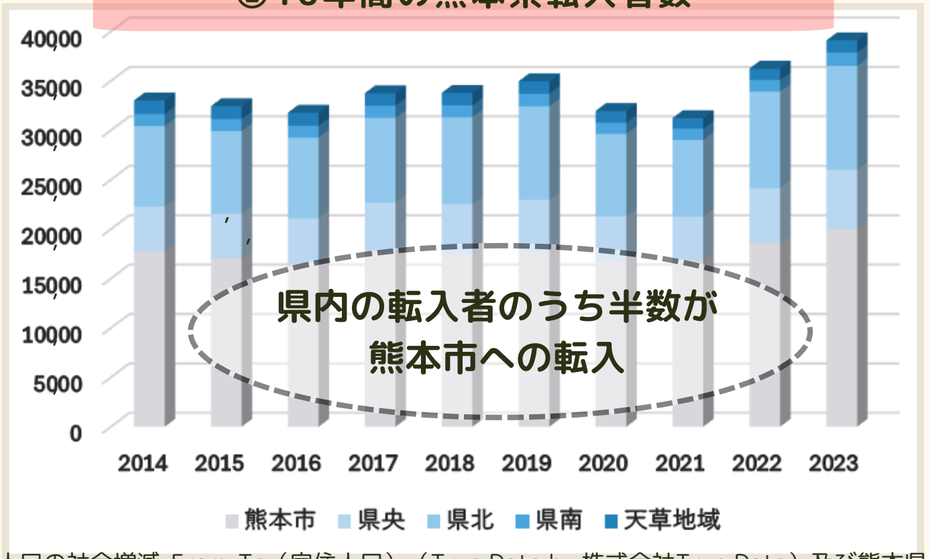


②のグラフより
熊本市以外への転入は
わずかこの↔のみ

地方創生法（2014年）によって、
全国各地で地域移住促進のための支援が活発に！！

一方で、県北地域や県南地域の移住者数は地域面積や
自治体数で比較すると非常に少数。

②10年間の熊本県転入者数



【出典】RESAS人口の社会増減-From-To（定住人口）（True Data by 株式会社True Data）及び熊本県ホームページより作成

【現状を踏まえて】

①生産年齢人口が減少している
②熊本市外への転入者が少ない

2 データ分析～概要～

◆データ分析方法

①経時データ分析

⇒時間の経過に伴うデータの変動

②コンジョイント分析

⇒対象の属性をどのように評価しているのか

③クロス集計

⇒異なる変数間の関係性

④クロスSWOT分析

⇒SWOT分析の要素を組み合わせ戦略を考案

⑤ペルソナ分析

⇒具体的な人物像を作成し心のアプローチを推測

◆データ収集方法

転入者データ
（RESAS及び自治体HPより）

移住者への
ヒアリング調査

ヒアリング調査
（熊本県及び６市町村）

アンケート調査
(移住者84名)

◆ご協力いただいた方々

- 熊本県庁
- あさぎり町役場
- 天草市役所
- 五木村役場
- 菊池市役所
- 高森町役場
- 南阿蘇村役場
- 御船町役場
- 地域おこし協力隊
- で～ら祭り運営
- 大津絵里様
- トラストパーク株式会社
- その他アンケートにご協力いただいた皆様

（順不同・敬称略）

2 データ分析

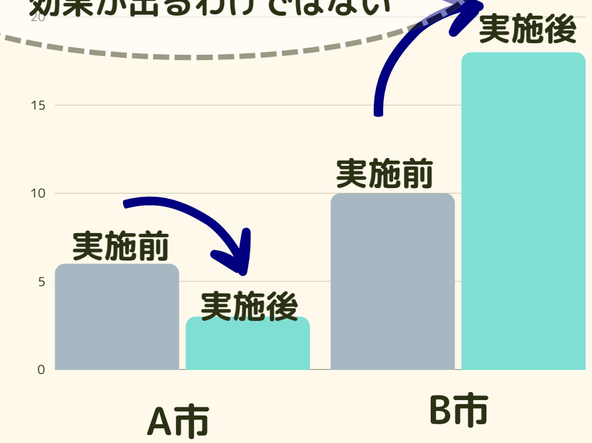
◆経時データ分析（混合効果分散モデル）

対象地域：ヒアリング実施地域
評価時期：移住施策実施前と実施後
分析内容：自治体の移住関連施策実施後の転入者数の変化
（移住支援金/補助金除く）

【結果】

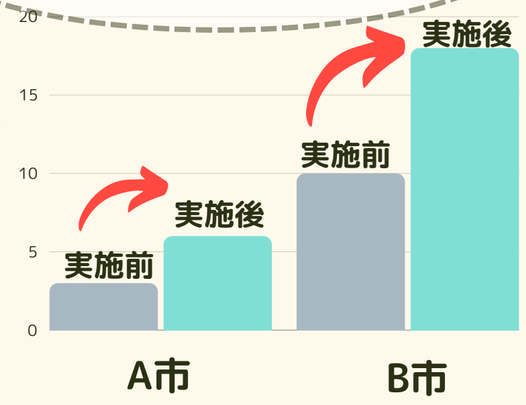
転入者数変化（従来）

移住施策をしても必ず
効果が出るわけではない



転入者数変化（理想）

施策効果を出すには施策の有効性を
十分検討する必要がある



【出典】RESAS人口の社会増減-From-To（定住人口）（True Data by 株式会社True Data）より作成及び熊本県ホームページより作成

◆コンジョイント分析

【属性と水準】

移住先を選んだ理由		移住時に苦労した事	
自然環境	○or×	仕事関連	○or×
生活関連	○or×	住まい関連	○or×
人間関係関連	○or×	環境関連	○or×

単一回答で評価

【結果】

移住先を選んだ理由

自然環境で選んだ

移住時に苦労した事

住まい関連で苦労した

【参考】アンケートをもとに作成

2 データ分析

◆アンケート単純集計

【熊本を選んだ理由】

1位　自然環境◎

2位　子育て環境◎

【移住時に苦労した点】

1位　移住先探し

2位　情報収集

3位　環境に慣れない

◆アンケートの自由回答欄

・想像している地方暮らしと実際の地方暮らしでは
かなりギャップがある

・移住先を探している時の拠点となる宿泊所があるといい

・移住者と地域住民の価値観の相違や、ルールを知る機会
が少ないことなどからトラブルになるケースがある。

◆クロス集計のうち独立でないもの に関する推測

●年齢×移住したきっかけ（子育て中）
30代～50代の人は移住当時、子育てがきっかけで移住を
考えた人が多い

●家族構成×移住したきっかけ（子育て中）
多くの２世代同居の家庭は子育て中のため移住を考えている

●家族構成×移住先理由（子育てしやすい）
多くの２世代同居の家庭は子育てのしやすさで移住先を
選んでいる。

他にも...
一人暮らしの移住者は人間関係の構築に苦労している
等々の結果が出た

【参考】アンケートをもとに作成

2 データ分析

◆クロスSWOT分析

	内部環境	
	強み ・自然、食べ物が豊富 ・子育てしやすい ・ほどよく都会 ・水がきれい	**弱み** ・市と地方の格差 ・交通の便が悪い ・地方の過疎化 ・移住施策が不十分
外部環境 **機会** ・TSMCによる経済効果 ・在宅勤務者の増加 ・地方分権 ・新幹線の運行 ・交通網の整備促進	自然環境の良さを生かして 地方暮らしを望む **在宅勤務者・家族層の獲得**	**地方の魅力を発信** ⇒知名度アップ
外部環境 **脅威** ・少子高齢化 ・都市圏への人口集中 ・自然災害 ・気温差 ・地方暮らしの理想が高い	**自然・暮らしやすさを** **SNSで発信** ⇒都市圏からの移住を促進	・地方の移動手段を増やす ・**移住体験を通じて**理想と 現実のギャップを埋める

2 データ分析

◆ペルソナ分析

プロフィール

【性別】男性　　【年代】30代
【出身】東京都　　【職業】自営業
【家族構成】２世代同居（妻と子ども）

【移住検討の理由】

自然が好き ・子育て環境に適している

⇒知人からの口コミより熊本を検討・決定

【移住の際に苦労したこと】

住まい探し・仕事探し・近所づきあい

【移住先の条件】

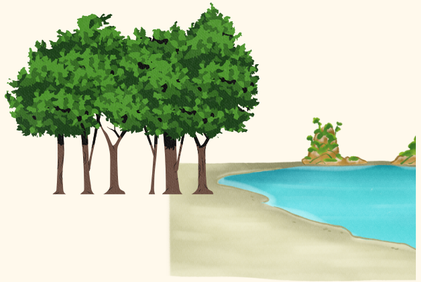
自然環境が良い・子育てしやすい・家賃が安い

【理想の生活】

自然の中で子育て

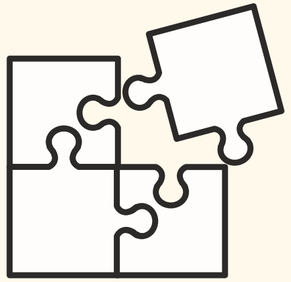
【参考】アンケートをもとに作成

移住する可能性がある人の特性



・自然が好き

・子育て中



・地域に関係がある
（出身地orパートナーの地元）

課題

・仕事が少ない
・地域住民との交流
・理想と現実のギャップ
・新規移住者が少ない

提案

・移住先へ下見
・地域住民との橋渡し
・定住に向けて充実した移住検討
・地方の認知度アップ

3 ① 施策提案

移住だけでなく定住も見据えたコミュニティづくり

移住先での円滑なコミュニティ形成

地域のアイデンティティ発信

選好にマッチした移住先の選択

>>> 満足度の高い移住先決定 >>> 定住率UP！

そこで…

移住者の選好に合わせた**2段階移住**を提案！

3 ① 施策提案

◆先行事例

〇長崎県(2015年~2019年)

地元の方と会話する
きっかけになった

車中泊が可能なスポットを
探すのに苦労した💧

住んでいる感覚で
移住体験ができた

キャンピングカーのレンタルサービス

軽キャンピングカー『インディ７２７』を１台導入。

・レンタル料金　8,000円/1日

・ 大人２人、子ども２人就寝可能

・79組179名利用のうち14組34人移住
（３年目時点では３割が移住）

〇高知県（2018年～）

ゆっくり移住先を
検討できた

移住地だけではなく
県全体の街並みも
把握できた

こうち
二段階移住

こうち2段階移住

・レンタカー費用を最大2万円補助

・お試し移住費用を最大22万円補助

・140組利用のうち20組移住（～2020年）

3 ① 施策提案

【キャンピングカーを利用】
～アクティブプラン～

概要 検討時にキャンピングカーの貸し出しをすることで、
移住検討者の移動範囲を拡大するための取組

冬雪の降らない九州は、
東日本のような四季を感じる観光魅力は少し減る…

↓ しかし！

冬でも雪がほぼ積もらない地域が多いため

１年を通してキャンピングカーでの移動が可能！

熊本の地域特性を活かしたプラン
熊本県全体の魅力を伝えることが出来る

【公営住宅を利用】
～ゆたーっとプラン～

概要 まずは都市部に移住し、そこから県内の他の地域を巡り、
最終的な移住先を決めるという段階的な移住方法

熊本県のオリジナルポイント！

1 熊本市と八代市の二カ所を拠点！

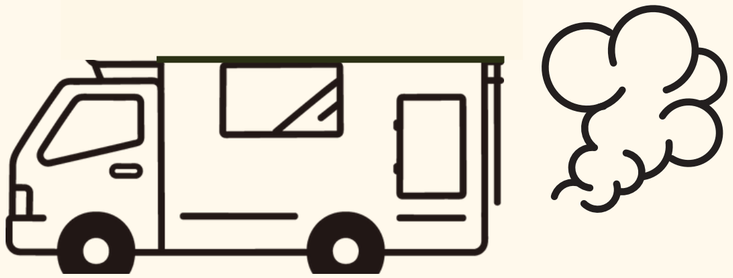
熊本の第二の都市である八代市も拠点に加えることで、
県南地域への移動時間を短縮

2 移住サイト＆SNSにて移住体験日記を投稿！

移住サイトやSNSに移住体験日記を随時投稿し、県外の
若者の関心も集めて体験希望者増を図る

3 ① 施策提案【アクティブプラン】

【アクティブプラン】



【利用条件】

①3日以上1か月以内の滞在

②事前説明会への参加

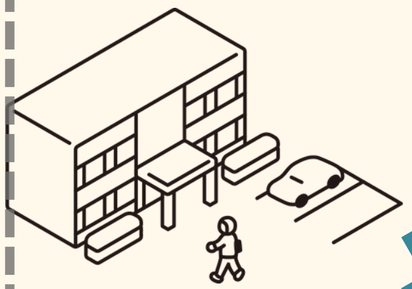
③指定したプログラムへの参加

④移住サイト＆SNSに
体験日記を投稿

【概要】

「地方暮らし」をよりリアルに体験すべく、検討時にキャンピングカーの
貸し出しをすることで、移住検討者の移動範囲を拡大するための取組

【Plan】

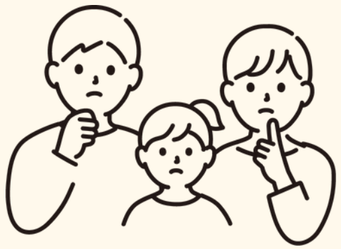


①県庁での相談窓口で
希望自治体を設定

キャンピングカー
の貸し出し

②該当自治体で
詳細プランを設定

③イベント参加＆
地域探索



④報告書を提出＆
移住先の検討

④最終の相談＆
移住先の決定

移住サイト＆SNS
に体験日記を投稿

3 ① 施策提案【アクティブプラン】

【Point①】

◇車中泊可能な場所

①道の駅
県内23カ所
（仮眠のみOK）

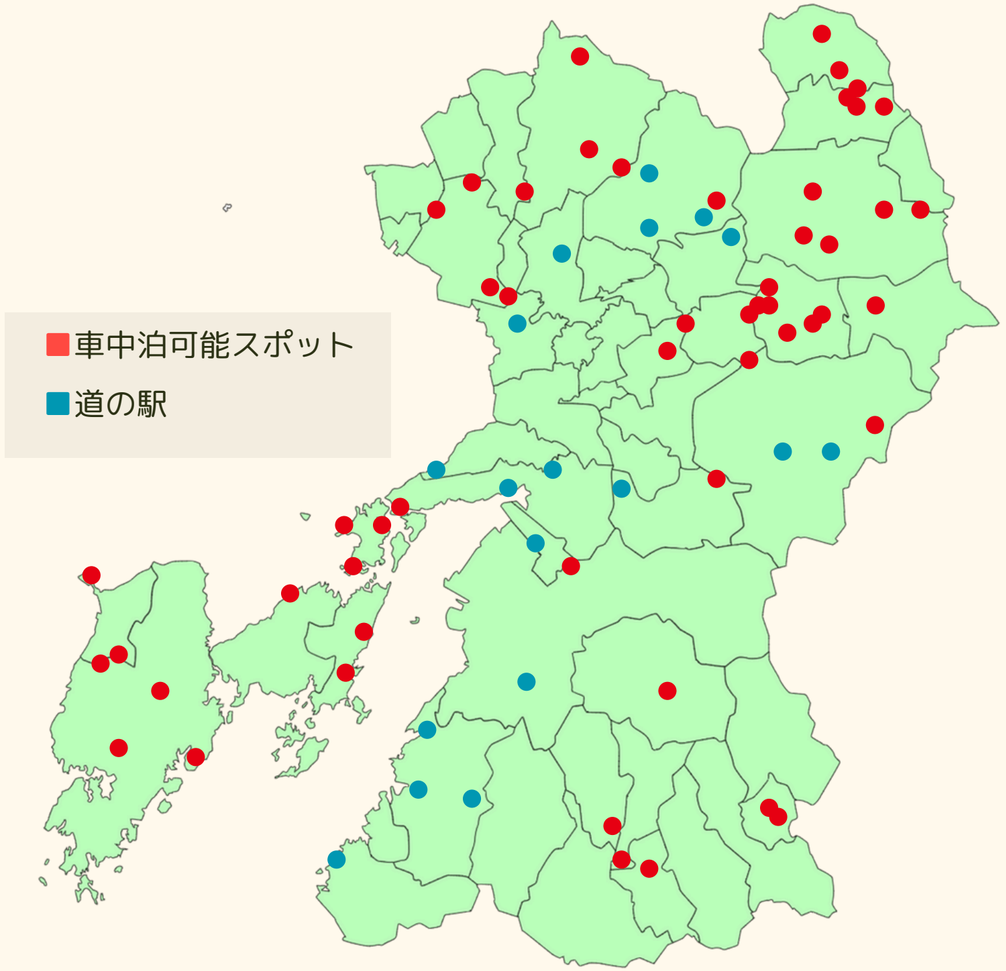
②RVパークsmart
県内20カ所

③オートキャンプ場
県内41カ所

RVパークsmart とは
⇒インターネットで事前に予約・支払いを行い、利用日当日に予約完了後に表示されたQRコードを使いチェックインすることで、設定された利用時間の間に電気が給電される無人車中泊サービス

【参考・写真】RVパークsmart予約・利用方法無人車中泊サービスRVパークsmart (rvparksmart.jp)

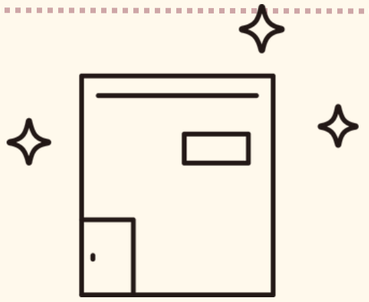
車中泊or仮眠可能スポットがある地域



【参考】熊本のキャンピングカー乗り入れ可能なキャンプ場
(https://www.nap-camp.com/campingcar/kumamoto/list?sortId=21)

3 ① 施策提案【ゆたーっとプラン】

【ゆたーっとプラン】



【概要】

まずは都市部に移住し、そこから県内の他の地域を巡り
最終的な移住先を決めるという段階的な移住方法

【利用条件】

①１か月～2年の利用
（空き家改修の場合は＋1年延長可）

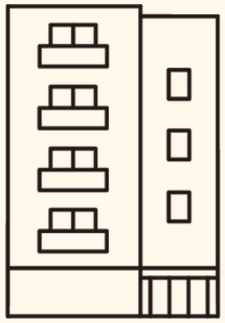
②空家の改修予定or
新築予定の方

③熊本市or八代市に住民票を移す

④移住サイト＆SNSに
体験日記を投稿

【Plan】

①県庁での相談窓口で
入居準備

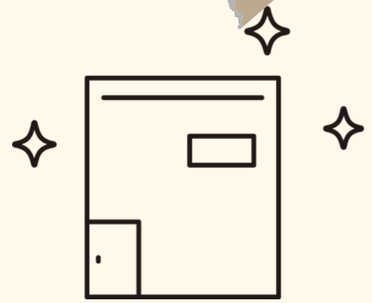


①熊本市or八代市内に拠点を置く

③各地視察＆内件

地元住民との座談会

④報告書を提出＆
移住先の決定



④家の準備が整い次第
移住決定

移住サイト＆SNSに
体験日記を投稿

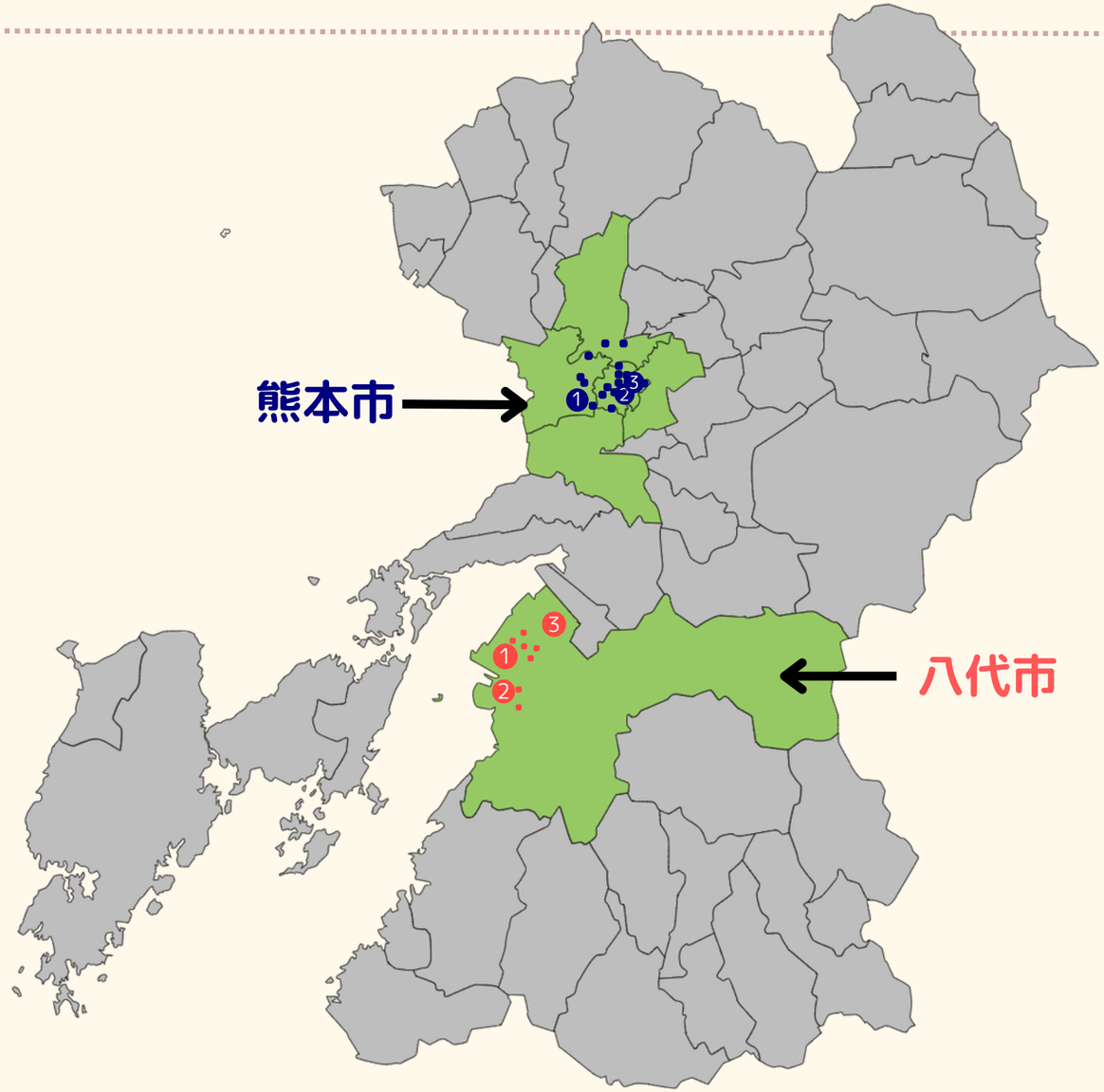
3 ① 施策提案【ゆたーっとプラン】

◆熊本市内の県営住宅
(空室あり)

例）①田崎団地　徒歩5分　1.5km圏内
②堀之内団地　徒歩6分　1.0km圏内
③新渡鹿団地　徒歩2分　1.0km圏内

◆八代市内の市営住宅
(空室あり)

例）①築添団地　徒歩13分　車で13分
②麦島団地　徒歩3分　車で10分
③郷開団地　徒歩3分　車で13分



★（現在は申し込み資格を満たす必要があるため、移住者用にも申請予定）

3 ② 実行可能性【アクティブプラン】

アクティブプラン
（2人暮らしの1週間分）

◇ キャンピングカーレンタル	30,000円
◇ 宿泊費　オートキャンプ場・RVsmart （道の駅　仮眠ならOK）	21,000円 （０円）
◇ 食費	12,500円
◇ 日用品	10,000円
◇ 入浴費	8,400円
◇ 洗濯費	1,000円
◇ ガソリン代	7,000円
◇ 合計	89,900円 道の駅での仮眠の場合（68,900円）

(キャンピングカー会社様監修のもと作成)

プラン実行日（約3日間）	自由行動（約4日間）
町の住民との座談会 イベント参加 地域おこし協力隊による町案内	自由にドライブ！！

年間事業実施費用（県の補助）

キャンピングカー (カーリース1年契約でその都度更新)	600,000
任意保険(１年ごと)	100,000
合計	700,000

【参考】讀賣新聞オンライン「兵庫県の公用車「センチュリー」２台解約、違約金は７００万円…新たにワンボックス２台契約へ」をもとに作成

最初は国庫補助金を利用
30,000×26(週)=780,000
(700,000×5)÷780,000=4.48…
１年の半分以上稼働したとして
約４年半で補助金分が回収できる

3 ② 実行可能性【ゆたーっとプラン】

◆1段階目の居住地候補

①熊本市内の県営住宅
②八代市営住宅（熊本県第２の都市）

◆プランの一例

◆平日 リモートで仕事

◆休日 住まい探しと仕事探し

＜その他＞
・地域住民(先輩移住者)と座談会
・地域のイベントに参加
・ジョブカフェ・ブランチにて仕事相談

ゆたーっとプラン

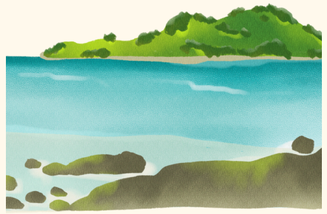
(2人暮らしの1か月分)

◇ 家賃	30,000円
◇ 食費	70,000円
◇ カーリース（軽自動車）	35,000円
◇ 電気、ガス、水道代	26,000円
◇ ガソリン代	5,000円
◇ 合計	166,000円

（熊本市公式移住情報サイトより作成）

4 ① モデルプラン【アクティブプラン】

必須プラン　自由プラン

	自然満喫プラン	仕事発見プラン	子育て安心プラン
			
10:00	ドライブ＆魚釣り	宮原酒造場で酒造見学	先輩移住者との相談会
12:00	昼食	あさぎり町コワーキングスペース見学	現地のカフェでランチ
14:00	天草市を中心に住まい探し	昼食	南阿蘇村を中心に 保育園・小学校見学
16:00	地元のスーパーでショッピング	球磨川散歩	南阿蘇湧水群観光
18:00	「RVパークsmart天然温泉　愛夢里」	ジョブカフェ球磨ブランチで 職業紹介	キャンプ場に到着
	入浴・食事	道の駅子守唄の里にチェックイン	夕食・入浴
20:00		五木温泉「夢唄」で入浴・食事	

4 ① モデルプラン【ゆたーっとプラン】

必須プラン　自由プラン

	平日	休日①	休日②
10:00	リモートワーク	あさぎり町　視察 地域おこし協力隊による空き家紹介	ジョブカフェ・ブランチで 仕事探しの相談
12:00	昼食	昼食	昼食
14:00	リモートワーク	マルシェに参加＆地域住民と交流	あさぎり町へ
16:00			あさぎり町の住民や 先輩移住者との座談会
18:00		帰宅	帰宅
20:00	夕食	夕食	夕食

5 まとめ・展望

自分の選好に合わせたプランを選択してリアルな地方暮らしを体験

納得して熊本に移住してもらい定住に繋げる！

- 在宅勤務者、子育て世帯に魅力的なプラン ⇒ 生産年齢人口増を目指す
- 地域住民との橋渡し ⇒ 移住先での円滑なコミュニティの形成
- SNSで投稿してもらう ⇒ 全国へ熊本の魅力を宣伝

【展望】

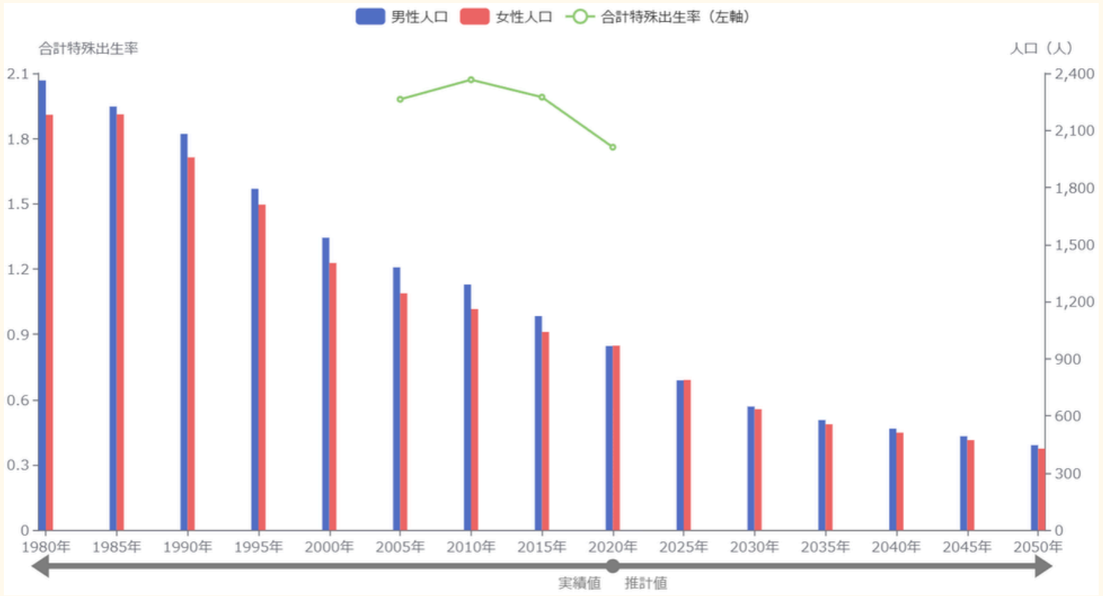
- ☑ 官民連携で事業の発展⇒キャンピングカーのシェアリング等
- ☑ ２段階目の移住先の提案⇒移住エリア設置
  →移住者が移住者を呼ぶ町をつくる

補足資料

補足資料①

合計特殊出生率と年少人口の推移

あさぎり町



【出典】RESAS　人口の自然増減より

合計特殊出生率は減少傾向にあり、年少人口も３０年後には半分に

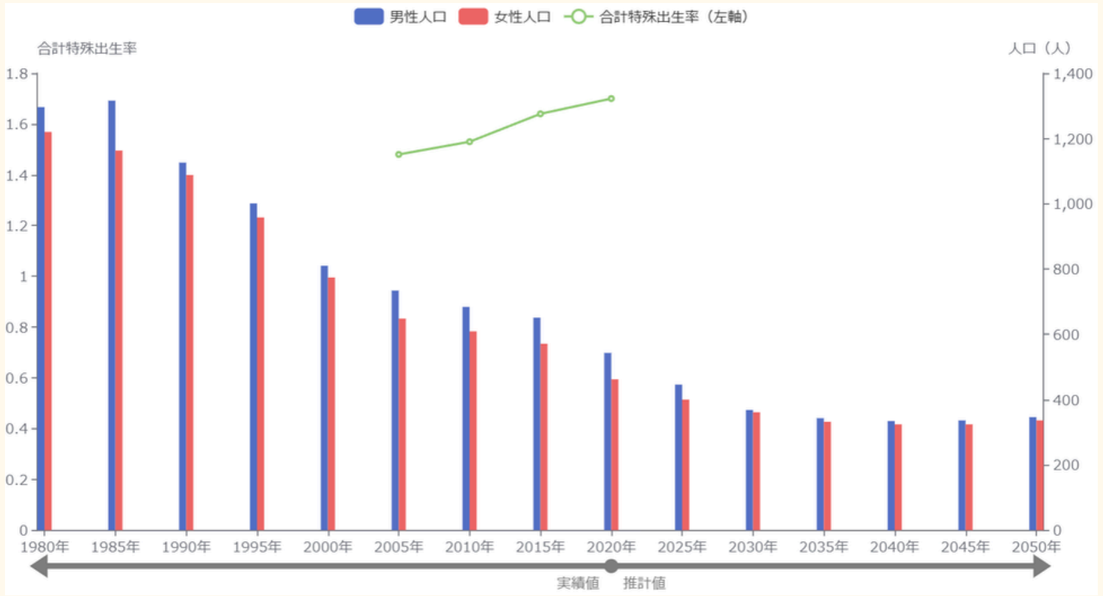
- 新規よりもUターンによる移住者が多い
- 民間と協力した事業(移住相談窓口や空き家バンク等）

<u>消滅可能性都市には指定されていないが…</u>

⇒女性の減少率が -46.7%と深刻

【引用】人口戦略会議　【参考】ヒアリング調査

南阿蘇村



【出典】RESAS　人口の自然増減より

合計特殊出生率は上昇、年少人口も大きな減少は見られず維持されている
⇒子育て支援の充実、新規移住者の増加

- 消滅可能性都市からの脱却！
- 自立持続可能性があるとされた

⇒近年若者が増加

- 移住定住に関して町独自の事業、情報発信

【引用】人口戦略会議　【参考】ヒアリング調査

補足資料②

官民連携を用いたキャンピングカー活用

公共部門	民間部門
購入 ・ 運営	維持管理 （車検・清掃） ・ 保管

車を購入することで、移住以外の活用も！

災害地への派遣
行政イベントでの利用

民間企業とキャンピングカーをシェアリング

利点

- シェアリングエコノミー
- 専門知識を持った人が維持管理
- 官民連携の補助金が利用可能

利用可能な補助金

ローカル10,000プロジェクト
-地域経済循環創造事業交付金-

【引用】総務省　ローカル10,000プロジェクトより

産学金官の連携により、地域の人材・資源・資金を活用した
新たなビジネスを立ち上げようとする民間事業者などの
初期投資費用を支援するもの。

補足資料③

◆移住エリアの概要

▶建 設 場 所　　未活用の公有地（普通財産）

▶整備・運営　　官民連携（PFI法）

▶住　宅　数　　一カ所5～10世帯
⇒地元住民との軋轢を防ぐ

◆ 補助金

・国庫補助金
・社会資本整備総合交付金(国土交通省)
⇒地方公共団体等が行う社会資本の整備
その他の取組を支援する交付金

Point

No.1

土地は無償or格安で
民間企業に提供

No.2

地元住民も利用できる
交流スペースを設置

No.3

将来的には県内各地に
移住エリアが点在！